## 数学演習第一 (演習 第5回) 微積:極値, 関数の増減, ロピタルの定理 【解答例】

2020年6月24日実施

$$\boxed{\mathbf{1}}$$
 (1)  $f(x) = \frac{1}{2x} + \operatorname{Tan}^{-1} \frac{x}{2}$  は  $x \neq 0$  で定義された奇関数である. 導関数は

$$f'(x) = -\frac{1}{2x^2} + \frac{1}{1 + (x/2)^2} \cdot \frac{1}{2} = -\frac{1}{2x^2} + \frac{2}{x^2 + 4} = \frac{3x^2 - 4}{2x^2(x^2 + 4)}.$$

また、 $\lim_{x\to +0} f(x) = \infty$ 、 $\lim_{x\to \infty} f(x) = \frac{\pi}{2}$ . よって、f(x) の増減表は以下のようになり、極大値は

2 ,   0		
$f\left(-\frac{2}{\sqrt{3}}\right) = -\frac{\sqrt{3}}{4} - \frac{\pi}{6}$	,極小値は $f\Big(rac{2}{\sqrt{3}}\Big)$	$\bigg) = \frac{\sqrt{3}}{4} + \frac{\pi}{6} $ となる.

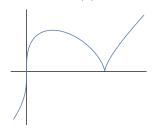
$\boldsymbol{x}$	$-\infty$		$-\frac{2}{\sqrt{3}}$		-0	+0		$\frac{2}{\sqrt{3}}$		$\infty$
f'(x)	0	+	0	_	$-\infty$	$-\infty$	_	0	+	0
f(x)	$-\frac{\pi}{2}$	7	極大値	$\searrow$	$-\infty$	$\infty$	$\searrow$	極小値	7	$\frac{\pi}{2}$

(2)  $f(x) = x^{\frac{1}{3}}(x-3)^{\frac{2}{3}}$  は  $\mathbb{R}$  全体で定義されている. 導関数は

$$f'(x) = \frac{1}{3}x^{-\frac{2}{3}}(x-3)^{\frac{2}{3}} + \frac{2}{3}x^{\frac{1}{3}}(x-2)^{-\frac{1}{3}} = x^{-\frac{2}{3}}(x-3)^{-\frac{1}{3}}(x-1).$$

よって, f(x) の増減表は以下のようになり, 極大値は  $f(1)=2^{\frac{2}{3}}$ , 極小値は f(3)=0 である.

x		0		1		3	
f'(x)	+		+	0	_		+
f(x)	7	0	7	$2^{\frac{2}{3}}$	7	0	7



## 2 以下,ロピタルの定理を用いた箇所を \* で表す

(1) 
$$\lim_{x \to 1} \frac{x \log x}{1 - x^2} \stackrel{\star}{=} \lim_{x \to 1} \frac{\log x + 1}{-2x} = -\frac{1}{2}.$$

【別法】 
$$y = x - 1$$
 とおけば、(与式) =  $\lim_{y \to 0} \frac{(1+y)\log(1+y)}{-y(2+y)} = -\lim_{y \to 0} \frac{1+y}{2+y} \cdot \frac{\log(1+y)}{y} = -\frac{1}{2}$ .

$$(2) \lim_{x \to +0} \left( \frac{1}{\sin x} - \frac{1}{x} \right) = \lim_{x \to +0} \frac{x - \sin x}{x \sin x} \stackrel{\star}{=} \lim_{x \to +0} \frac{1 - \cos x}{\sin x + x \cos x} \stackrel{\star}{=} \lim_{x \to +0} \frac{\sin x}{2 \cos x - x \sin x} = 0.$$
 【注】  $x \to +0$  での極限の問題になっているが, $x \to 0$  に置き換えても同じ極限値を持つ.

$$(3) \lim_{x \to 0} \frac{x - \operatorname{Sin}^{-1} x}{x - \operatorname{Tan}^{-1} x} \stackrel{\star}{=} \lim_{x \to 0} \frac{1 - (1 - x^2)^{-\frac{1}{2}}}{1 - (1 + x^2)^{-1}} \stackrel{\star}{=} \lim_{x \to 0} \frac{\frac{1}{2} (1 - x^2)^{-\frac{3}{2}} \cdot (-2x)}{(1 + x^2)^{-2} \cdot 2x} = \lim_{x \to 0} \frac{-(1 - x^2)^{-\frac{3}{2}}}{2(1 + x^2)^{-2}} = -\frac{1}{2}.$$

(4) 
$$\lim_{x \to \infty} x \left( \frac{\pi}{2} - \operatorname{Tan}^{-1} x \right) = \lim_{x \to \infty} \frac{\frac{\pi}{2} - \operatorname{Tan}^{-1} x}{\frac{1}{x}} \stackrel{\star}{=} \lim_{x \to \infty} \frac{-\frac{1}{1+x^2}}{-\frac{1}{x^2}} = \lim_{x \to \infty} \frac{x^2}{1+x^2} = 1.$$

【別法】
$$\theta = \operatorname{Tan}^{-1} x$$
 とおけば、(与式) =  $\lim_{\theta \to \frac{\pi}{2} - 0} \tan \theta \cdot \left(\frac{\pi}{2} - \theta\right) = \lim_{\varphi \to +0} \frac{\varphi \cos \varphi}{\sin \varphi} = 1 \ (\varphi = \frac{\pi}{2} - \theta \ \text{とした}).$ 

(5) 
$$y = x^x$$
 の微分:  $\log y = x \log x$  より  $\frac{y'}{y} = \log x + 1$ , 従って  $y' = x^x (\log x + 1)$ . これを用いて,

$$\lim_{x \to 1} \frac{x^x - x}{x - \log x - 1} \stackrel{\star}{=} \lim_{x \to 1} \frac{x^x (\log x + 1) - 1}{1 - \frac{1}{x}} \stackrel{\star}{=} \lim_{x \to 1} \frac{x^x (\log x + 1)^2 + x^{x - 1}}{\frac{1}{x^2}} = 2.$$

(6) 
$$f(x) = \log\left(\frac{\sin x}{x}\right)^{\frac{1}{x^2}}$$
  $(x > 0)$  とおけば,  $\lim_{x \to +0} f(x) = \lim_{x \to +0} \frac{\log(\sin x) - \log x}{x^2} \stackrel{\star}{=} \lim_{x \to +0} \frac{\frac{\cos x}{\sin x} - \frac{1}{x}}{2x} = \lim_{x \to +\infty} \frac{\sin x}{x}$ 

$$\lim_{x \to +0} \left( \frac{\sin x}{x} \right)^{\frac{1}{x^2}} = \lim_{x \to +0} e^{f(x)} = e^{-\frac{1}{6}} \ \text{th.}$$

【注】 $x \to +0$  での極限の問題になっているが、考えている関数が偶関数であるから、 $x \to +0$  を  $x \to 0$  に置き換 えても同じ極限値となる.

- **3** 以下, ロピタルの定理を用いた箇所を <sup>★</sup> で表す.
  - (1)  $\bullet \lim_{x \to +0} f(x) = \lim_{x \to +0} \sin x \log x = \lim_{x \to +0} \frac{\log x}{\frac{1}{\sin x}} \stackrel{\star}{=} \lim_{x \to +0} \frac{\frac{1}{x}}{-\frac{\cos x}{\sin^2 x}} = -\lim_{x \to +0} \frac{\sin x}{x} \cdot \tan x = 0.$

また,  $f(x) = |\sin x| \log x$  は x > 0 で定義された連続関数と見なすことができ,

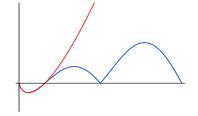
- $\lim_{x \to \pi} f(x) = f(\pi) = |\sin \pi| \log \pi = 0$ ,  $\lim_{x \to 2\pi 0} f(x) = f(2\pi) = |\sin 2\pi| \log 2\pi = 0$ .
- - $\lim_{x \to +0} f'(x) = \lim_{x \to +0} \left(\cos x \log x + \frac{\sin x}{x}\right) = -\infty.$   $\lim_{x \to \pi \mp 0} f'(x) = \pm \lim_{x \to \pi} \left(\cos x \log x + \frac{\sin x}{x}\right) = \mp \log \pi \ (複号同順).$   $\lim_{x \to 2\pi 0} f'(x) = -\lim_{x \to 2\pi} \left(\cos x \log x + \frac{\sin x}{x}\right) = -\log 2\pi.$
- (3) まず、 $\lim_{x \to +0} g(x) = \lim_{x \to +0} \frac{\log x}{\frac{1}{x}} \stackrel{\star}{=} \lim_{x \to +0} \frac{\frac{1}{x}}{-\frac{1}{x^2}} = \lim_{x \to +0} (-x) = 0$  に注意する.これと(1)の結果より、
   $f(x) = \sin x \log x$  は、f(+0) = f(1) = 0、f(x) < 0 (0 < x < 1)、 $f(x) \ge 0$  ( $x \ge 1$ ) を満たす.

  - $g(x) = x \log x$  は, g(+0) = g(1) = 0, g(x) < 0 (0 < x < 1),  $g(x) \ge 0$   $(x \ge 1)$  を満たす.

但し  $\lim_{x \to +0} f(x)$  を f(+0) というように表した. ここで述べた事実から, f(x), g(x) はともに 0 < x < 1において、最小値 (負の値) をとることが分かる. 更に、0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、明らかに 0 < x < 1 ( $< \pi/2$ ) においては、x < 1 ( $< \pi/2$ ) におい  $\sin x < x$  であるから,  $f(x) - g(x) = (\sin x - x) \log x > 0$  となり, "f(x) の最小値 > g(x) の最小値" が示された. 最後に, g(x) の最小値を求める.  $g'(x) = \log x + 1$  より, g(x) の増減表は以下の通り.

$\boldsymbol{x}$	+0		1/e	
g'(x)	$-\infty$	_	0	+
g(x)	0	7	極小値	7

よって、求めるべき最小値は g(1/e) = -1/e である.



- 4 以下, ロピタルの定理を用いた箇所を ≛ で表す.
  - (1)  $f(x) = x \log(1+x)$   $\xi \sharp \zeta$ .  $f'(x) = 1 \frac{1}{1+x} = \frac{x}{1+x}$   $\sharp \vartheta$ , -1 < x < 0  $\mathfrak{T}'(x) < 0$ , x > 0  $\mathfrak{T}'(x) < 0$ f'(x) > 0. よって, f(x) は -1 < x < 0 で単調減少, x > 0 で単調増加であるから, 最小値が f(0) = 0となり,  $f(x) \ge 0$  が示された.
  - $(2) \lim_{x\to 0} g(x) = \lim_{x\to 0} \frac{x^2}{x \log(1+x)} \stackrel{\star}{=} \lim_{x\to 0} \frac{2x}{\frac{1}{1+x}} = \lim_{x\to 0} 2(1+x) = 2$  なので, g(0) = 2 と定めればよい.
  - (3) 微分係数の定義により,

$$g'(0) = \lim_{h \to 0} \frac{g(h) - g(0)}{h} = \lim_{h \to 0} \frac{h^2 - 2\{h - \log(1+h)\}}{h\{h - \log(1+h)\}} \stackrel{\star}{=} \lim_{h \to 0} \frac{2h - 2 \cdot \frac{h}{1+h}}{h - \log(1+h) + h \cdot \frac{h}{1+h}}$$
$$= \lim_{h \to 0} \frac{\frac{2h^2}{1+h}}{h - \log(1+h) + \frac{h^2}{1+h}} = \lim_{h \to 0} \frac{\frac{2}{1+h}g(h)}{1 + \frac{1}{1+h}g(h)} = \frac{2g(0)}{1 + g(0)} = \frac{4}{3}.$$

$$g'(x) = \frac{2x\{x - \log(1+x)\} - x^2 \cdot \frac{x}{1+x}}{\{x - \log(1+x)\}^2} = \frac{x^2(2+x) - 2x(1+x)\log(1+x)}{(1+x)\{x - \log(1+x)\}^2}$$

より、以上をまとめて、
$$g'(x) = \begin{cases} \frac{x^2(2+x)-2x(1+x)\log(1+x)}{(1+x)\{x-\log(1+x)\}^2} & (x > -1, \ x \neq 0), \\ \frac{4}{3} & (x = 0). \end{cases}$$

(4) x > -1,  $x \neq 0$  において, g'(x) の分子, 分母はともに連続で, 分母は 0 にならないので, g(x) は連続で ある. また,  $g'(0) = \lim_{h\to 0} \frac{g(h)-g(0)}{h} \stackrel{\star}{=} \lim_{h\to 0} g'(h)$  より, g'(x) は x=0 でも連続である. よって, g(x) は  $\mathbb{R}$  上で  $C^1$  級である. 【注】この論法により, 一般に, 連続関数  $\varphi(x)$  が x=a を除いて微分可能であるこ とが分かっているとき、 $\lim_{x \to a} \varphi'(x)$  が存在すれば、それが  $\varphi'(a)$  となり、 $\varphi'(x)$  は x=a で連続となる.